

経皮的鋼線刺入術, 腓骨に対し観血的整復固定術, 血管縫合術, ほかに筋膜切開術および膝関節内洗浄を施行した。11月9日右脛骨骨折に対し上記髄内釘を用い固定術を施行した。術後6週よりトーマス装具装着し, 歩行訓練開始した。現在は, 装具内部分荷重で, 近日中に装具を外す予定である。【症例3】59歳男性。平成22年11月16日自動車による交通事故で受傷。初診時, 右脛骨近位部開放性骨折, 右腓骨骨折, 右大腿骨骨幹部骨折, 左リスフラン関節脱臼骨折, 左足関節脱臼骨折が認められた。同日, 右大腿骨骨折, 右腓骨骨折に対し髄内釘刺入, 左リスフラン脱臼骨折に対し, 経皮的鋼線刺入を行った。11月30日右脛骨骨折に対し上記髄内釘を用い固定術施行した。左下肢は第2回手術の4週後から荷重開始した。右下肢は術後7週よりトーマス装具装着し, 歩行訓練開始した。現在は, 装具内荷重で, 近日中に装具を外す予定である。【結語】脛骨近位粉碎骨折に対し, 上膝蓋アプローチによる膝伸展位での脛骨髄内釘固定で良好な固定が得られた。

#### 11. 腓骨筋腱脱臼に対して Akiki 法を施行した 1 例

○山口 蔵人, 久保田 仁, 須藤 執道  
(堀江病院 整形外科)

比較的稀な腓骨筋腱脱臼に対して Akiki 法を施行し, 良好な結果を得たので報告する。【症例】17歳男性(野球部), H19年8月走行中に急停止した際足関節背側強制され, 腓骨筋腱脱臼を起こす。その後左右に動く際脱臼を繰り返し, 受傷後7週で当科初診。初診時足関節背屈位にて腓骨筋腱は容易に脱臼し, 腓骨筋腱脱臼の診断にて9週で Akiki 法を施行。Akiki 法は腱床を陥凹させる手術法の一つで, 腓骨後方の腱床を骨軟部組織ごと陥凹させる。術後2週で全荷重を許可し, 4週でギプス除

去, 夏の大会には出場した。【考察】腓骨筋腱脱臼に対する手術は軟部組織を修復するもの, 腓骨を骨切りして骨性防壁を作るもの, 腓骨腱床を陥凹させるものなどがある。本法は腓骨腱床の骨軟部組織を一塊にて陥凹させる方法で, 内固定を必要とせず早期より可動域訓練や荷重歩行が可能であり, 腓骨部の違和感が少ないなどの利点が多い。早期復帰を目指すスポーツ選手には特に有用な手技と思われた。

#### 12. 非外傷性頸髄硬膜外血腫の 2 例

○勝見 賢 (深谷赤十字病院 整形外科)  
萩原 明彦, 小野 秀樹  
(公立藤岡総合病院 整形外科)

外傷の既往なく頸部の痛みで発症し, 急激な麻痺の進行のため, 緊急手術を行った頸髄硬膜外血腫を経験したので報告する。【症例1】60歳女性。後ろを振り向いた瞬間に頸部に激痛が生じ, 徐々に呼吸苦も出現してきたため救急搬送された。救急外来にて急速に四肢麻痺の進行を認めたため MRI を施行し, 頸髄硬膜外血腫と診断し緊急手術(頸椎椎弓形成術+血腫除去術)を行った。現在は, 頸部の軽い違和感の他, 後遺症なく日常生活を送っている。【症例2】68歳男性。既往に C 型肝炎, 肝硬変がある。夜寝ようとした瞬間に頸部に激痛が走り, 右上下肢の脱力が生じ救急搬送された。脳梗塞が疑われ内科にて頭部 CT, MRI が施行されたが, 所見なく経過観察入院となった。翌日になり, 左上下肢の麻痺も出現したため整形外科コンサルトとなった。MRI にて頸髄硬膜外血腫と診断し緊急手術を行ったが, 麻痺の回復は十分でなく, 日常生活において, 介護を要する状態である。頸髄硬膜外血腫は片側の麻痺で発症することもあり, 脳血管疾患と紛らわしく, 注意が必要であると感じた。